



ふじ美が原

富士見中学校



【五月十三日 人権校長講話】

四月、地域の方からこんな連絡をいただきました。

五時過ぎ頃だろうか、私は明日の朝早く用事があるため、前の日のうちにゴミ袋を捨てようと思い、線路沿いの道をゴミステーションに向かって、エッチラオッチラ、歩いていくと、後ろから一人の女子中学生が「もちましようか？」と声をかけてくれました。その声がかがとでもうれしく、過ぎ去る女子生徒の後ろ姿を見たら、背負った緑の鞆がとても神々しく光って見え、私にとってはとても素敵な時間でした。普段からも最近行き交う生徒が気持ちの良い挨拶をしてくれます。とても嬉しくて今日は電話をしてみました。ぜひ生徒の皆さんにお伝えください。

もう一つ、これは三年生の生活記録です。

今日、ランニングをしていたら、坂道で自転車を押しているおじいさんに会いました。とてもしんどそうに歩いていたので「お手伝いしましょうか？」と声をかけました。その声をかけると、おじいさんが笑顔になってくれました。人が笑顔になってくれる行動ができたのでよかったです。

「もちましようか」「おてつだいしましょうか」という二つのお話からいえることは、誰だって、人に助けてもらったら嬉しいということです。日頃皆さんの周りでも、助けてもらってうれしいことがたくさんあるのではないのでしょうか。

さて、私がお話したいのはここからです。今の二つのお話は、富士見中の生徒の話です。このような人たちのおかげで、富士見中の印象は多分よくなっているかもしれません。ですが、この行為は「みんな」がしたことではありませんよね。

ここで、考えてほしいのは、私たちは、この「みんな」という言葉を、日頃何気なく使っていますよね。「みんな」という言葉を使うとき、それって、自分がその集団の中にあるということに安心しているのではないかと、思うのです。「みんな同じなんだ」ということに落ち着きたがっているのではないかと思うのです。いつの間にか「同じだよね。仲間だよね」とか、逆に「違っていい。仲間じゃない」ということを、無意識に簡単に受け入れてしまっていないかということですね。その結果、「あの子なんか変な感じだよね」ということになっていく。私はここにいじめの芽が潜んでいるように思えます。「変でも何でも、みんながっついていいのだ」

「仲良しでなくても一緒にやっつけていいのだ。」
という考え方が、本来、みんなが仲間と築く信頼関係だと思います。仲良しでなくても、何かの時には一緒にできることがとても大切です。

私たちがよく耳にする「みんな」という言葉を出したときや聞いたとき、「おや、まてよ、本当にみんななの？」と一旦立ち止まり、「私はこう思うけど、どう？違つ意見の人もいるでしょ」というような気持ちを常に持っている、「先生、私は違つと思うよ」ということも言っていくのではないかと思います。

「メタ認知」という言葉を聞いたことはありませんか？これは誰もがもっている能力です。「認知」という言葉は、自分が見えている範囲の物事に対して、考えたり、判断したりすることです。「メタ」とは「より高い」という意味です。この「認知」に「メタ」ということが付くことで、自分が普段見えている範囲以外のことも考えられるようになったり、判断したりすることができるようになるということです。つまり、日頃から、すぐに思ったままに行動せず、一歩立ち止まって考えたり、他の意見はないだろうかと考えるということです。

もう少し簡単に言うと、自分を見つめる「もう一人の自分」や人の行動を見て、自分のあり方を考える力のことを言います。

このメタ認知があると、どんないいことがあるかというと、例えば

- ・自分が急いで焦っているとき、自分は何に焦っているのだろうと考えられ、感情に振り回されず、質の高い意志決定ができます。

- ・新しい学習に出合ったとき、「これは何を言っているのだろう」と素早く捉えて学習スピードが速くなりま

- ・いろいろな環境におかれても、冷静に自分を見つめ、持っている力を発揮して成果を出せるようになる。

これらは、みなさんの学習や部活、人間関係にも自分の持っている力がより高く発揮される大切な能力です。メタ認知を高めていくにはどうしたらいいでしょう。最初に話した「持ちましようか」「手伝いましようか」といった人の行為もメタ認知です。

その他にはこんなものもあります。これは二年生のAさんの生活記録です。

今日、生徒総会がありました。今回もリモートで生徒総会をしました。思ったことは、『たぐさんの人前で意見を言えるってすごいなあ』です。私は、クラスの中で発言するのすら苦手なので、これからは、意見を出していた人を真似して、沢山意見が言えるようにし、私もだんだん真似されるようになりたいです。

Aさんは自分のモデルとなる姿を見て、日々の自分の姿を振り返っていきます。この振り返ることが、次のAさんの行動の準備となっていて、おそろしくもう一人のAさんが、これからの毎日のいろいろな場面で、自分自身の姿を客観的にみつめ、メタ認知を高めていくでしょう。

次に三年生の教室をのぞくとこんな様子もありました。Bさんの生活記録です。

今日は生徒総会がありました。私の委員会には質問意見がなかったの

で、「質問がなくて良かった」と思う気持ちの裏に、「来てほしかった」という気持ちがありました。全部終わって教室に戻ると、「お疲れ様」と書かれた黒板と予定が書かれた生活記録。いろいろな人に支えられて役員をやらせてもらっているということ

を改めて実感しました。ありがとうございます。

おそらく生徒総会で質問がきてほしかったと考えていたBさん。一つの答えだけでなく、多くの答えが問題の解決につながると思える力はメタ認知です。しかも、このBさんを支えるクラスの人々が、そこにはいないBさんを思い、労いの言葉を用意し、Bさんが早く下校できるように自分が出れることをしてくれたいこともメタ認知の力です。

紹介した人たちのように、メタ認知を發揮して生活していくには秘訣があります。それは、日頃から、本音を言える関係を作ることです。仲良しではなくても何気ない日常会話で本音を出し合える関係や授業で発言すること、生活記録で自分を振り返ること、登下校の頭の中で、今日の自分の行動を予想したり、一日を振り返るなど、「客観的に自分を見る時間」を持つことで、あなたのメタ認知はどんどん向上していきます。

さて、今日は人権教育について考える学習のスタートとして、まずは、自分自身を見つめることから始めてもらいたいという願いのお話をしました。参考になることがあれば、試してみてください。きっと、AさんやBさんのクラスのような本音の言い合える、過ごしやすいクラスになると思いますよ。

最後に、学習シートを用意しました。この扱い方は教室にいる先生から指示があると思いますが、チェックリストの部分だけ少し補足します。

シートの中には、チェックリストを載せました。このチェックはぜひ「もう一人の自分」で試してみてください。「自信がないなあ」「こう



なりたいとは思いますが」と思いながらチェックすると思いますが、できるだけ「客観的に」つけてみてください。自分の評価が低くても気にする必要はありません。私もやってみたらBが一つあたりはCばかりでした。むしろ、チェックリストの項目は、日頃から意識しておくことだと思いますので、これからの生活の中で、時々振り返ってみると、自分の成長が感じられるのではないでしょう。

チェック内容

- ・課題の解決に何が一番効果的なのか判断できる
- ・何が重要なのか判断して正確に行動できる
- ・自分の能力を把握している
- ・自分が乗り越えた課題の過程を具体的に振り返ることができる
- ・物事を客観的に見て上手く言っているかどうか判断できる
- ・一つの答えではなく多くの解決方法を導き出せる
- ・行動する前に計画を立てることができる
- ・行き詰った時に立ち止まって思考できる
- ・人との関係性を考えて空気を察することができる

富士見町立富士見中学校

諏訪郡富士見町富士見四六五四番地

TEL 02666-62-2009

FAX 02666-62-7409

担当 両角 太